

親の喫煙行動と子どもの将来喫煙行動に関連する親の意識

清水 恵子、高橋 裕子 (奈良女子大学大学院)

【目的】過去の全国を代表する青少年の喫煙行動に関する調査の分析結果において子どもの飲酒・喫煙行動ともに親の影響を強く受けていることが明らかになっていることから、親世代の禁煙や親世代への教育の重要性が示唆されている。今回われわれは幼児期の子どもを取り巻く家庭のタバコ環境、親の喫煙行動と子どもの将来の喫煙に対する親の意識等に関する調査研究を行った。

【方法】質問紙調査に先立ち、幼稚園児の母親 10 名に対して「子育てで大事と思うこと」、「親という立場でタバコについてどう思うか」等についてフォーカスグループインタビュー (FGI) による質的調査を行った。FGI で得た情報を基に「子どもの将来の喫煙に対する親の意識」の関連要因として、タバコに関する知識、喫煙の健康影響や親自身の喫煙が子どもに及ぼす影響等の認識、家庭環境等を想定した自記式調査票を作成し、A 地域の 3~5 歳の保育園・幼稚園児の親 240 名を対象にアンケート調査を実施した。有効回答者数 207 名について各項目の単純集計を行い、次いで家族喫煙者の有無とのクロス集計 (χ^2 検定) を行った。

【結果】FGI の結果から、「禁煙の困難さ」、「家庭や地域の受動喫煙対策の遅れ」、「タバコによる子どもの事故の問題」、「親の喫煙行動が子どもの将来の喫煙に及ぼす影響」、「段階的な喫煙防止教育の必要性」などが子育てをしていく上でのタバコに関する課題として上がった。

質問紙調査による父親の喫煙率は 49.8%、母親の喫煙率は 11.1%、喫煙者のうち今すぐ禁煙しようと考えている者は 6.3%であった。親の喫煙行動は「子どもの見ている前でタバコを吸う」88.4%、「子どもの手が

届くところにタバコを置いている」38.4%であった。

子どもの将来の喫煙に対する親の意識は、「男子 20 歳まで、女子 20 歳まで、男子 20 歳以降、女子 20 歳以降」のすべての場合で、家族喫煙者がいない家庭において家族喫煙者がいる家庭より「子どもが吸わないことを望む」と答えた割合が有意に高かった。

表1~4 子どもの将来の喫煙に対する親の意識

表1. 「男子20歳までの喫煙」についての親の意識			
	喫煙有	喫煙無	合計
吸わないことを望んでいる	n 58 % 66.7	n 62 % 84.9	n 120 % 75.0
調整済み残差	-2.7	2.7	
どちらかといえば吸わないことを望んでいる	n 22 % 25.3	n 11 % 15.1	n 33 % 20.6
調整済み残差	1.6	-1.6	
どちらともいえない	n 7 % 8.0	n 0 % 0.0	n 7 % 4.4
調整済み残差	2.5	-2.5	
合計	n 87 % 100	n 73 % 100	n 160 % 100

χ^2 検定 P=0.008

表17

表2. 「女子20歳までの喫煙」についての親の意識			
	喫煙有	喫煙無	合計
吸わないことを望んでいる	n 59 % 79.7	n 63 % 95.5	n 122 % 87.1
調整済み残差	-2.8	2.8	
どちらかといえば吸わないことを望んでいる	n 14 % 18.9	n 3 % 4.5	n 17 % 12.1
調整済み残差	2.6	-2.6	
どちらともいえない	n 1 % 1.4	n 0 % 0.0	n 1 % 0.7
調整済み残差	0.9	-0.9	
合計	n 74 % 100	n 66 % 100	n 140 % 100

χ^2 検定 P=0.020

表18

表3. 「男子20歳以降の喫煙」についての親の意識			
	喫煙有	喫煙無	合計
吸わないことを望んでいる	n 40 % 46.0	n 50 % 68.5	n 90 % 56.3
調整済み残差	-2.9	2.9	
どちらかといえば吸わないことを望んでいる	n 33 % 37.9	n 20 % 27.4	n 53 % 33.1
調整済み残差	1.4	-1.4	
どちらともいえない	n 14 % 16.1	n 3 % 4.1	n 17 % 10.6
調整済み残差	2.4	-2.4	
合計	n 87 % 100	n 73 % 100	n 160 % 100

χ^2 検定 P=0.006

表19

表4. 「女子20歳以降の喫煙」について親の意識			
	喫煙有	喫煙無	合計
吸わないことを望んでいる	n 57 % 77.0	n 63 % 95.5	n 120 % 85.7
調整済み残差	-3.1	3.1	
どちらかといえば吸わないことを望んでいる	n 12 % 16.2	n 3 % 4.5	n 15 % 10.7
調整済み残差	2.2	-2.2	
どちらともいえない	n 5 % 6.8	n 0 % 0.0	n 5 % 3.6
調整済み残差	2.2	-2.2	
合計	n 74 % 100	n 66 % 100	n 140 % 100

χ^2 検定 P=0.006

統計的分析はSPSS12.0j for Windowsを用いた。
残差は | 2 | 以上を特異な箇所としてみなす。

【考察・結語】子どもの将来の喫煙に対する親の意識は「喫煙者がいる世帯」より「喫煙者がいない世帯」、「男子」より「女子」の場合において「子どもがタバコを吸わないことを望んでいる」ことがわかった。

今後は家族喫煙者がいる家庭の大人への喫煙防止教育や禁煙支援の必要性が強く示唆された。